

落花生「ナカテユタカ」の収穫適期について

1 試験のねらい

本県の落花生奨励品種ナカテユタカは、剥実歩合及び上実歩合の高い多収品種で、近年作付面積が増加し、昭和60年には県内の落花生作付面積の89%を占めている。しかし、ナカテユタカは掘り遅れた場合、食味が低下しやすいことが問題となっている。これは、ナカテユタカは他の品種と異なり、落葉前に収穫適期をむかえる特性があるため、収穫適期の判定が難しく、掘り遅れることによる。

そこで、食味の点からみたナカテユタカの適収穫期を把握するため、収穫時期と食味の関係を検討した。

2 調査方法

場内畑は場（表層多腐植質黒ボク土、七本桜統）で5月8日に播種したポリマルチ栽培のナカテユタカを用いた。開花期後75日・85日・100日・110日後に掘り取り、架干乾燥室でそれぞれ21日間乾燥させ一時貯蔵した後、上実を熱風乾燥器で130℃で35分間処理し食味試験に供した。

3 調査結果及び考察

開花期後85日目の収穫を基準として検討した結果は次のとおりであった。

75日目では、煎り色は赤味を帯びていたが粒の充実が悪く、外観は劣った。歯ごたえはやや弱く、やや軟であった。甘味は基準と大差なく、総合評価は劣っていた。100日目では、全体に粒の充実も良く、大粒で外観が良く、硬く歯ごたえも良かったことに加え、甘味を強く感じ、総合評価は良かった。

110日目では粒の充実は良かったが、煎り色が白味を帯び外観が劣った。また、基準及び100日目に比べ香りが弱く、やや軟かく歯ごたえがやや弱かったほか、甘味が基準及び他の処理より低く、総合評価は劣った。

収量については75日目から85日目にかけて増加し、85日目から110日目にかけて大差なかった。百粒重は75日目ではやや軽かったが、その他は大差なかった。

千葉県農試（研報第25号）によると、ナカテユタカの最高収量は開花期後90～100日であり、食味からみた収穫適期はその約10日前とされている。本県での最多収期はそれより約10日遅く、これにより、本県においても最多収期前の収穫が適期と思われ、本試験結果でも同様の傾向が認められた。

表-1 食味試験成績

收穫時期	基準	総合	外観	香り	硬さ	舌ざわり	甘味
開 75日		-0.500	-0.556	-0.667	-0.278	0.000	-0.056
花 85日	基準	0	0	0	0	0	0
期 100日		0.500	0.389	1.167	0.444	0.222	0.333
後 110日		-0.889	-0.444	-0.444	-0.222	-0.611	-0.333

注：昭和61年1月13日 農試作物部職員 18名

表-2 収量調査成績

処理	調査	さや実重 (kg/a)	子実重(kg/a)			百粒重 (g)
			上実	下実	合計	
開 75日		39.4	24.0	3.7	27.7	84.2
花 85日		42.5	27.0	4.2	31.2	97.2
期 100日		47.1	28.1	4.3	32.3	98.0
後 110日		46.1	27.8	4.3	32.1	98.4

4 まとめ

以上のことから、収穫が早過ぎても食味は劣るが、85日目から100日目にかけて比較的良好な食感が得られ、掘り遅れる(110日目)と外観が損なわれ、甘味が低下して総合評価が劣った。あわせて収量を子実重でみると、最高収量は100～110日頃であり、千葉農試の報告と比較した場合、同様な傾向が見られ、本県におけるナカテユタカの収穫適期は最多収期の前と考えられる。

(担当者 作物部 荒井忠夫)